

留学通信 その4 最終回

お久しぶりです。皆様はいかがお過ごしでしょうか。前回の留学通信で冬休みの報告をしてから約半年が経ちましたが、その間本当に様々な出来事がありました。やはり新型コロナウイルスについて触れざるを得ないようです。

まず、スウェーデンの学校も他の国と同様に新型コロナウイルスの流行に伴い、オンライン授業が開始され、私の学校では3月18日に始まりました。ただ、他の北欧の国と比較してもスウェーデンはオンライン授業の開始が数週間遅く、政府の取る措置が少し違っていた事を覚えています。例えば、オンライン授業は高校・大学のみで、中学校、小学校、幼稚園は閉鎖されませんでした。小さな子供を持つ、医療現場で働く方々にきちんと働いてもらうため、感染源が学校であるかどうか不確かであるため、といった理由を政府は挙げていました。その他にも50人以上の集まり禁止、老人ホームの訪問原則禁止といった条例はありますが、基本的には政府が何かを禁止するというよりも、政府が国民に要請するといった形の政策が多くとられました。これには歴史的に築かれてきたスウェーデンの政府と国民の信頼関係も関与しているようです。その一方で死者数は突出して多く報告されており、政府の政策には賛否両論があります。

私の高校でのオンライン授業は、元々一人一人の生徒にパソコンが配られていた事、学校全体がTeamsというオンラインアプリを使っていた事により、比較的スムーズに始まりました。家庭でのインターネットに問題がある生徒は学校の図書館でサポートを受ける事ができたようです。個人的にはオンライン授業より、学校にいた方が集中して勉強できました。テストもオンラインで行われ、不正を防ぐために特別なアプリを用いたり、ビデオ通話を用いたりしました。

スウェーデンでの卒業式は6月12日に例年より縮小された形で行われました。スウェーデン人にとって高校卒業は人生の一大イベントのようで、日本の卒業式とは全くと言っていいほど違いました。基本的に日本では別れを悲しみ、式は厳かに行われると思いますが、スウェーデンではお祭り騒ぎに近く、悲しみは多少あるものの喜びに満ちています。また「卒業」と言っても学校で行われる式と生徒によって主催されるイベントがあり、この二つによって“studentveckan”（卒業週間）が成り立ちます。小石川で言う行事週間でしょうか。生徒によって行われるイベントには、例えば“mösspåtaging”（卒業帽子をみんなで被る式）“spela brännboll”（野球に似た伝統的なスポーツをする）“studentbal”（アメリカのプロムに相当する）などがあります。例年であれば、どのイベントも大勢の人が集まり、大変華やかなのですが、今年はコロナ対策として縮小した規模で行われました。それでも多くの方が開催できた事を嬉しく思っており、私自身もとても楽しんで参加する事ができました。学校で行われるイベントで特殊なのは“utspring”です。生徒が母校の玄関から陽気な音楽と共に一

齊に走り出すイベントです。この様子はライブ配信され、日本にいる両親も観る事ができました。

一年を振り返ると本当にあっという間ですが、長くも感じます。この場を借りて私の留学をサポートして下さった小石川の先生方、留学先の高校の先生方、両親、友人、叔母の家族、そしてその他大勢の方々に感謝の意を申し上げます。一年間本当にありがとうございました。またお会いできる日を心より楽しみにしています。



(左上)学校での式が終わった後に友人と撮った写真。被っているのは卒業帽です。卒業式は男子はスーツ、女子は白いワンピースを着ます。後ろには白樺の枝が飾りとして添えられています。

(左上から二番目) 学校での卒業式の様子。席の間には2 m ぐらい間隔が空いていました。

(左) 卒業生が被る卒業帽です。船乗りの帽子に似ています。あかり、自然科学コースと記されています。

(右上)緑色のシジミチョウ、ミドリコツバメです。